

# 12月議会での私の一般質問

## 脱炭素に向けた町づくりを住民参加で

**(問)**地球は沸騰化と言われ始め、CO2削減は急務だ。久万高原町は再生可能エネルギーの宝庫だ。町の行なう脱炭素に向けた町づくりは町がイニシアチブを發揮し開発・運営し雇用を生み、利益が地域に還元される必要がある。また、住民の参加が不可欠と考えるが、どう思われるか。

**(町長)**住民のご理解はもちろん、積極的に参加して頂くことが必要不可欠と考えている。住民説明会では太陽光発電設備、蓄電池の導入、省エネ家電や電気自動車への買い換え、無駄を無くする取り組みについて説明した。要望があれば説明し、大勢が参加頂ける学習会を実施したい。

**(問)**脱炭素に向けた町づくりは、住民の生活向上のためだけではなく、地球のため、未来に生きる人のために行なう事業だ。自分は何が出来るのかを考え、自由に意見が言える学習の場を持ってほしい。私も住民と学ぶ場を持ち、情報を共有したい。また、次世代を生きる子どもたちにとっては、直接関係する環境問題なので、学校教育に取り入れられないかお聞きしたい。

**(環境整備課長)**説明会は周知方法を検討し、より細かな説明ができるようにしたい。学校教育につきましても、教育委員会とも検討したい。

**(問)**固定価格買取制度ができてから他府県ではあるが、地域住民や団体が出資金を募り、太陽光発電に参加する例が増えている。このような動きが出た場合、今回の計画に取り入れられるのか。

**(環境整備課長)**今回の取り組みは町内で発電した電力を町内で消費する地産地消の取り組みとしている。住民出資型の太陽光発電設備はほとんどが全量固定価格買取制度を活用したものと理解し、現在の計画に取り入れるのは難しい。

**(問)**住民が脱炭素の町づくりに参加するきっかけになっている固定価格買取制度が脱炭素先行地域の取り組みには相容れないものだという説明は残念だ。太陽光発電の資材も軽量で効率のよいものもできている。太陽光発電をもっと増やせるのではないか。風力発電は騒音、振動、経費、また、環境破壊にもつながるので考え直せないか。

また、少水力発電は久万高原町に一番適していると思うが、今回の計画に入れなかったのはなぜか。

**(環境整備課長)**公共施設への太陽光発電施設設置については計画分以上は困難。断熱性能を高めたゼロエネルギーハウスの建設購入にはすでに交付金を出している。風力発電は事業者が環境アセスメントを実施し、適正に配慮する。少水力発電は数年間の調査が必要のため検討していない。

**(問)**新電力会社の設立も想定しているようだが、行政と住民を構成メンバーに入れるべきではないか。

**(環境整備課長)**新電力会社の構成は募集する提案内容をベースに考える。一方、電力の小売り体制として、現在の電力に紐付けすることも想定しているので、メリット、デメリットを考慮、選定し町民の皆様と共に脱炭素に向けた町づくりを進めたい。

## 11月3日の文化の日(日本国憲法公布日)に

## 県内の9条の会の呼びかけに応じ、

## 平和憲法を守ろうと街直しました

ウクライナで戦争が続いています。そしてガザ地区でも戦闘が激化しており、さらに中東に広がっています。武力を使わず外交努力で紛争を解決すべきとする平和憲法が守られねばなりません。お手本はASEANです。専守防衛の立場を守り、武力に頼ってはいけません。自衛隊の災害対応は大いに評価します。5年で43兆円の大量増に反対し、憲法改悪に反対します。



## おわりに

今、議会では脱炭素に向けた町づくりについて議論しています。町は、国の事業である脱炭素先進地域に応募する方針です。選定されると国から補助金が交付されます。この方針が町民の利益になるのか、もっと良い方法はないのかを慎重に考えねばならない重要な問題です。一緒に学びましょう。皆さんの声をお寄せ下さい。